



第3回

金利の基礎！

単利と複利で投資を考える



渋沢 英子



津田 桜子



北里 三郎



とうしくん

渋沢 お金の疑問にパキッと回答、「お金なんでも相談室」。ナビゲーターの渋沢英子です。

北里 北里三郎です。

津田 津田桜子です。

津田 / 北里 よろしくお願ひします！

渋沢 今日の質問いってみましょう！

北里 視聴者からメールをいただきました。「利息の話で単利と複利について聞いたんですが、詳しく教えてください」だそうです。

渋沢 では、まず、利息についておさらいしましょう。三郎さん、利息と聞いて何を思い浮かべますか？

北里 えーっと、銀行にお金を預けたときにつくものかなあ？

渋沢 確かに銀行に10万円預けたとき、利息が0.01%つく場合は10円もらうことができますね。では、なぜ銀行は預金者に利息を払うのでしょうか？

北里 えっ、……よく考えると……どうしてだろう？

渋沢 預金というのは、銀行から見るとみなさんからお金を借りている借金にあたります。**利息**はいわば借りたお金に対するレンタル料なんですよ。

津田 なるほど、お金の貸し借りをするときのレンタル料が利息なんですね。

渋沢 その通りです。このレンタル料、つまり利息には単利と複利という2つの種類があります。債券を買ったり銀行に預けたりしたお金、これを**元本**といいますが、この元本にずっと同じ利息がつく、これが**単利**です。一方、**複利**とは、元本とそれについて利息に対して利息がつくことです。金融商品も単利で増えるものと複利で増えるものがあります。単利で増える金融商品の代表が債券、複利で増える金融商品の代表が先ほどあげた銀行預金です。

北里 うーん、何がどう違うんだらう？

渋沢 具体的に数字で見るとその違いがわかります。債券を100万円分買った場合と、銀行に100万円預けた場合を比較してみましょう。

渋沢 仮の数字ですが、計算がしやすいように、債券も預金も毎年10%の利息がつくとします。まず、債券を買った場合から見てみましょう。債券は単利なので元本である100万円に毎年10%の利息がつきます。具体的に見てみましょう。まず、1年後は、元本の100万円に10%の利息、10万円がつきます。2年後も同じく、元本100万円の10%、10万円の利息。3年後、4年後、5年後と、毎年10万円ずつの利息がつくので、5年後の利息の合計、つまり利益は、50万円になります。

北里 毎年、10万円ずつ均等に利息がついていくんですね。

渋沢 一方、預金の場合はどうなるでしょう。預金は複利なので、元本とそれについて利息に対して利息がつきます。具体的に見ていきましょう。まず1年後、これは単利と同じく、元本100万円の10%、10万円の利息がつきます。元本と合わせると110万円になります。2年後には、利息10万円が上乗せされた110万円が元本になり、これに10%の利息がつきますので、11万円の利息となります。3年後には、利息11万円を加えた121万円が元本になり、これの10%、つまり12万1千円が利息となります。これを繰り返していくと、5年後には、利息の合計、つまり利益は61万510円となります。

津田 61万510円の利益、単利のときより11万円以上多いわ。

渋沢 単利の商品が一定の割合で増えるのに対して、複利の商品は加速度的な割合で増えていきます。まさに利息が利息を生むというわけです。ですから複利商品は、長期間保有するほどその恩恵が大きくなる特長があるのです。

北里 複利、ブラボー！

渋沢 今は資産をふやすお話をしましたが、逆に借金をするとどうなるでしょう。100万円を毎年10%の利息がつく複利で借りた場合、1年で返済するのなら10万円の利息をつけて110万円を返済すれば返済完了です。でも、もし10年借りていたら……

北里 なんだかいやな予感がするぞ。

渋沢 10年後には借金が2,593,742円、なんと2.5倍に膨れ上がってしまいます。このことはしっかり理解しておきましょうね。

北里 利息がどんどんついていくみたいに、僕の宿題もどんどん増えてくんだよな～。

津田 三郎君、宿題はためちゃだめよ。

北里 ぎゃふん！

とうしくん 今日の授業のおさらいだよ。

- ・ **利息**とは、お金を借りたときのレンタル料のようなもの
- ・ 利息には、単利と複利がある
- ・ **単利**とは元本にずっと同じ利息がつくこと
- ・ **複利**とは元本とそれについて利息に対して利息がつくこと
- ・ 長期で保有するなら複利の金融商品が良い

わかったかな。